

D 21 住情報に関する一考察 (2) —住情報と住居観—
大阪教育大 ○岸本幸臣 同 中西真弓

目的 前編と同様である。

方法 前編と同様である。

結果 住意識；居住者の住意識を志向特性として捉えると、マンション層には現代的住宅形式や居住形態を重視したり容認する層が多く、ミニ開発層には伝統的・在来的な住宅志向が強い。また住意識は学歴に規定され、高学歴化と共に現代的住意識の志向性が強まる。教育としての住情報；学校教育で学習した住情報の内容は、両タイプに基本的な差異は認められない。ただ、住宅事情・生活関連施設といった社会性の強い情報については、マンション層に学習記憶が顕著であり部分的な差異は存在する。親の住居観；家庭生活の中で親の伝統的な住居観を聞かされた体験の有無自体についても、両タイプに大きな違いは認められない。ただマンション層には親から「マンションは家ではない」と聞かされていた者が相対的に多く、またミニ開発層には「いつかは大きな家に住もう」と聞かされていた者がやはり相対的に多い。即ち逆説的影響や直接的影響など輻輳した影響を与えていることがうかがえる。また親の伝統的住居観を聞かされることは、一般的に住まいへの関心を高めるとみられ、住宅選択時における自主的・主体的判断力の形成に一定の影響を与えている。まとめ；住まいに対する情報と住意識は、ある面では直接的に、ある面では逆説的に影響しあっているものとみられる。そして住情報と住宅選択行動との間には相互関連的な関わりの存在が認められる。このため人々の住宅要求の正しい実現や好ましい選択を実現するために、住情報の適切な提供と、住教育内容の充実が求められる。